

本邦初！？アキアミ幼生の飼育に成功

サクラエビ科に属するアキアミは、塩辛、アミ大根、天ぷら等で食される美味しいエビである。生息場所は河口域や浅海域で、アミすくい網や小型底びき網で漁獲される。本県は全国有数の産地であるが、その漁獲量は年変動が大きい。水産研究所では本種の資源変動要因を明らかにすることを目的に生態調査を実施している。

本種の産卵期は6月～9月の長期にわたり、この間の再生産の出来不出来が秋の漁獲の豊凶を左右すると考えられる。

平成27年6月25日に吉井川河口域で採集した成熟アキアミから採卵を試みたところ、29日朝、ふ化後1日経過したゾエア幼生（写真1）が確認

できた。早速、珪藻とS型ワムシを餌料としてこの幼生の飼育を行った。

ふ化後6日目までに生存数は激減したが、11日目にはミシス幼生（写真2）に、17日目には親とほとんど姿が同じである稚エビ（写真3）に成長し、現在はふ化後40日で1cmまで成長している。産まれて間もない幼生期の飼育事例はこれまでに国内で1例あるのみで、稚エビまでの飼育に成功したのは本邦初と思われる。

今回、稚エビまで成長した個体はわずかであったが、飼育手法を改良しながら生存率の向上を図り、初期生残に及ぼす環境要因を明らかにしたい。

（資源増殖室：弘奥）

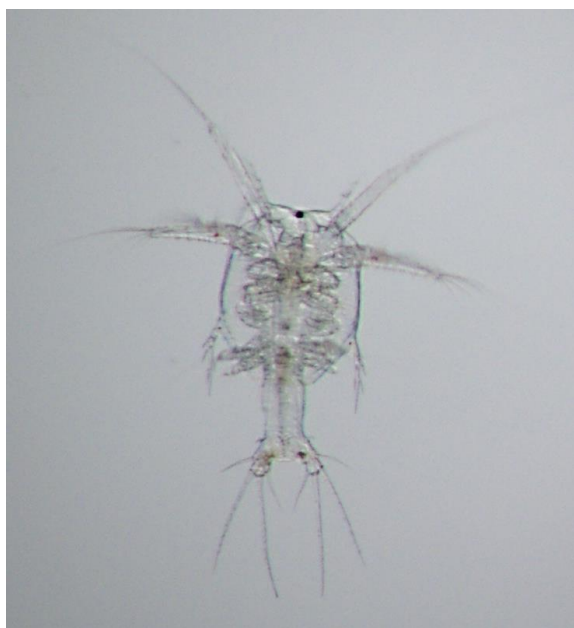


写真1 ゾエア幼生：体長0.5mm



写真2 ミシス幼生：体長1.4mm



写真3 稚エビ：体長2.5mm